

脱炭素先行地域における ちゅうぎんグループの取組

2023年1月26日



ちゅうぎんフィナンシャルグループ

名称	株式会社 中国銀行
取締役頭取	加藤 貞則
前身銀行創立	1878年（明治11年）12月9日
創立	1930年（昭和5年）12月21日
本店所在地	岡山市北区丸の内1丁目15番20号 TEL 086-223-3111
資本金	151億円
従業員数	2,748名（出向者118名を除く）
店舗数	144か店（本店、国内支店135、出張所5、特別出張所2、海外1） 上記のほか、店舗内店舗方式の支店を17か店、同方式の出張所を2か店、インターネット支店を1か店それぞれ設置しております。 事務所5（東京、ニューヨーク、上海、シンガポール、バンコク） 店舗外現金自動設備212か所（234台）
主要勘定	預金残高 7兆6,950億円 貸出金残高 5兆4,195億円 有価証券残高 2兆5,154億円



略歴

大学卒業後中国銀行へ入行。法人営業を経験後、国内大手リース会社に出向。2019年4月よりソリューション営業部ストラクチャードファイナンスセンターに着任し、**再エネ関連（太陽光、バイオマス、風力）プロジェクトファイナンス案件のアレンジメント業務を担当。**

2021年6月より、**総合企画部（新規事業開発センター）**においてサステナビリティをテーマとする**新規事業開発業務を担当。**

2022年9月より(株)Cキューブ・コンサルティングに出向し、SX関連のコンサルティング業務を担当（現職）。

豊富な森林資源

- ・県北では森林資源が豊富な水源を生み出し、工業用水の供給能力は中四国・九州でもトップクラス。

全国有数の工業地帯

- ・南部では全国でも有数の水島臨海工業地帯を有し、石油、化学、鉄鋼、自動車など幅広く製造業が集積。

広域な東瀬戸経済圏

- ・岡山県、香川県、備後地区※は同一の広域経済圏として高いポテンシャルを持つ。
※岡山県：笠岡市、井原市
広島県：三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町

温暖な気候と少ない災害

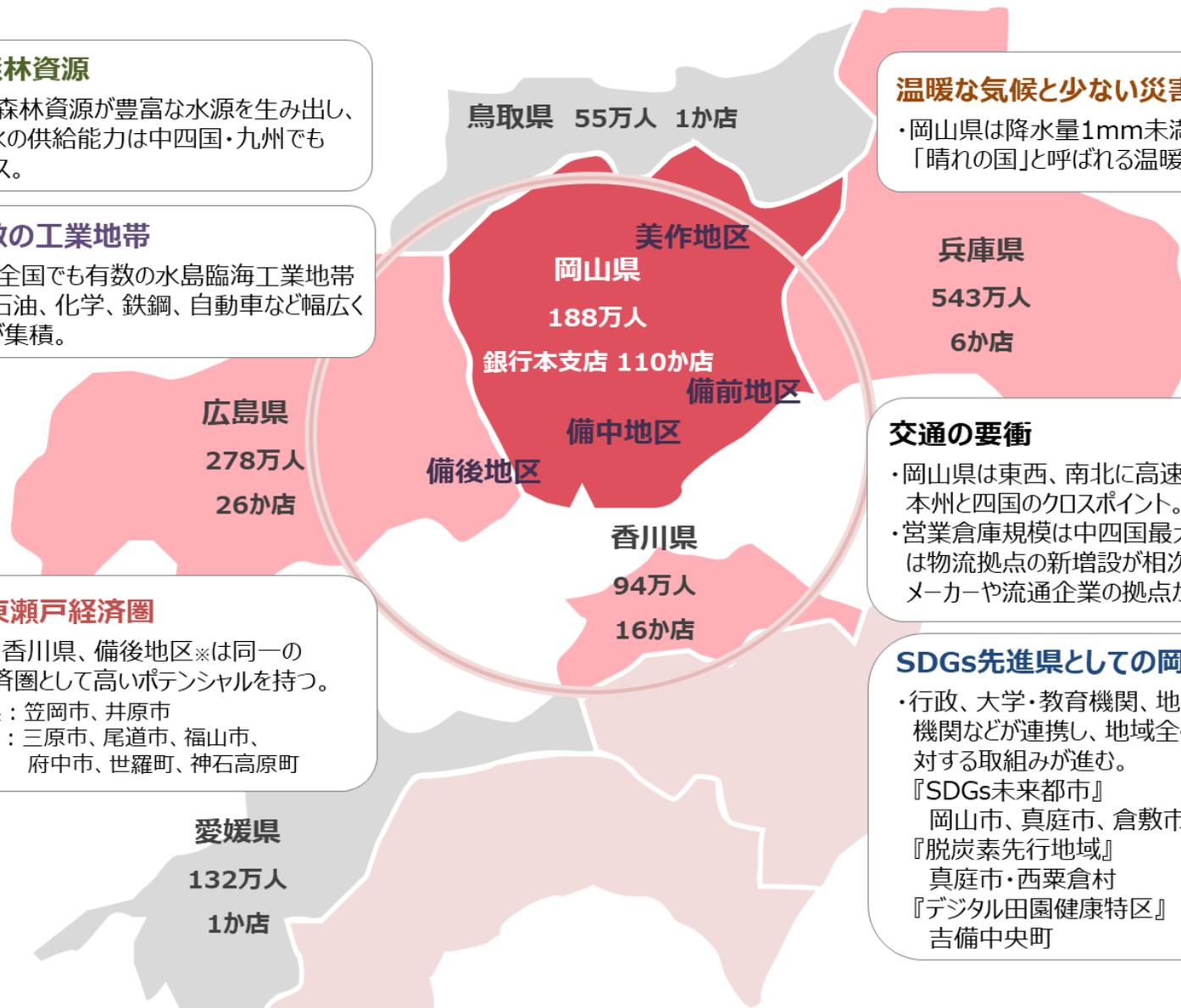
- ・岡山県は降水量1mm未満の日が多く「晴れの国」と呼ばれる温暖な気候。

交通の要衝

- ・岡山県は東西、南北に高速道路が交わる本州と四国のクロスポイント。
- ・営業倉庫規模は中四国最大であり、近年は物流拠点の新增設が相次ぎ、全国のメーカーや流通企業の拠点が数多く進出。

SDGs先進県としての岡山県

- ・行政、大学・教育機関、地元企業、金融機関などが連携し、地域全体でSDGsに対する取組みが進む。
『SDGs未来都市』
岡山市、真庭市、倉敷市、西粟倉村
『脱炭素先行地域』
真庭市・西粟倉村
『デジタル田園健康特区』
吉備中央町



2019/10

おかやま共創パートナーシップ

- ・地域の金融機関との連携
創業支援、商談会、人材交流等



地公体との協定（地方創生等）

【岡山県】 岡山県、岡山市、倉敷市、
美作市、玉野市

（'22/9）和気町

（'22/11）真庭市、高梁市

【広島県】 福山市

【香川県】 三豊市

2021/2

岡山未来共創アライアンス

- ・岡山大学との連携
お互いの情報、ノウハウを共有
SDGsを達成していくことで、
地域の発展に貢献



主な連携内容

- ・SDGsの達成、浸透、推進
- ・地域でのパートナーシップ構築
- ・産学連携の推進
- ・ベンチャー企業に対する支援
- ・デジタルトランスフォーメーション
- ・人材育成 など

2022/2

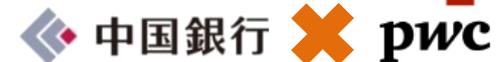
2022/3

地域脱炭素創生・ 岡山コンソーシアム

- ・岡山県内の産学官金による連携
地域特性や地域資源を活用し、
「地域ならではの」地方創生・
脱炭素社会を実現
(事務局)
環境省中四国環境事務所、
中国銀行、岡山大学

地方創生に関する連携協定

- ・大手総合コンサルティングファームの
PwCコンサルティング合同会社との連携
- ・DX、SX支援を中心に、地域に根差した
本格的なコンサルティングサービスを提供
= 新たな地方創生モデルの確立



真庭市 (脱炭素先行地域・SDGs未来都市)

ちゅうぎんの森 (2008年～)

- ・台風で被害を受けた真庭市の森林の一部を「ちゅうぎんの森」と名付け2008年から整備事業を実施。
- ・2018年からは新たな覚書を締結し、間伐・除伐などを行い、間伐後の木材については売却による整備資金への充当やバイオマス発電へ活用。



包括協定 (2022年11月～)

- ・真庭市とちゅうぎんフィナンシャルグループの知的・人的資源を有効活用し、持続可能な地域経済に向けた取組みに関する連携、協力を一層強化。



未利用農地を活用した新産業創出 -「コケ」の培養と製品化・販売化-

- 真庭市
- KOBASHI HOLDINGS株式会社
- 株式会社ジャパンモスファクトリー
- 農事組合法人寄江原
- 株式会社せとのわ



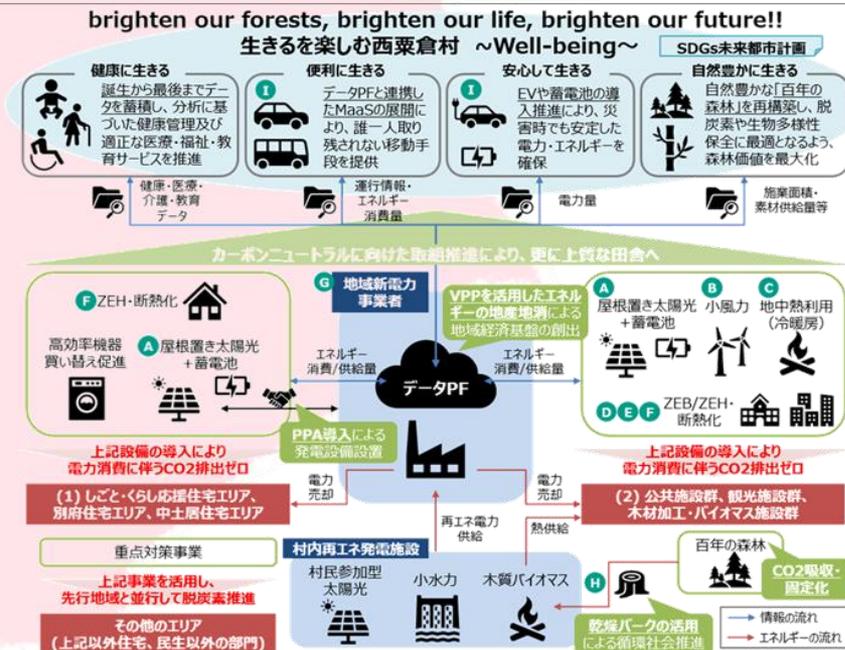
西粟倉村 (脱炭素先行地域・SDGs未来都市)

脱炭素先行地域

『2050“生きるを楽しむ”むらまると脱炭素先行地域づくり事業』



【体制図 (一部抜粋)】



Cキューブ・コンサルティング

代表者 西原 立

(元PwCコンサルティング合同会社・岡山県出身)

設立日 2022年9月1日

社名の由来

Chugin Financial Group「ちゅうぎんフィナンシャルグループ」
× Community「地域社会」 × Co-Creation「共創」

特徴

1

地方創生に熱い思いを持った**スタートアップ**

2

広域の社会課題解決(BtoX)

3

ちゅうぎんグループの**総合力**で地域をデザイン

4

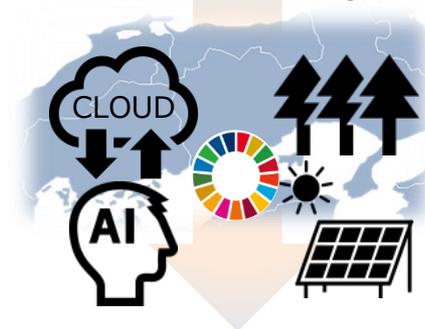
中国銀行の**信用力**/地域リレーション活用

お客さまや地域の課題解決・持続的成長に貢献

多様化・複雑化する地域課題

DX

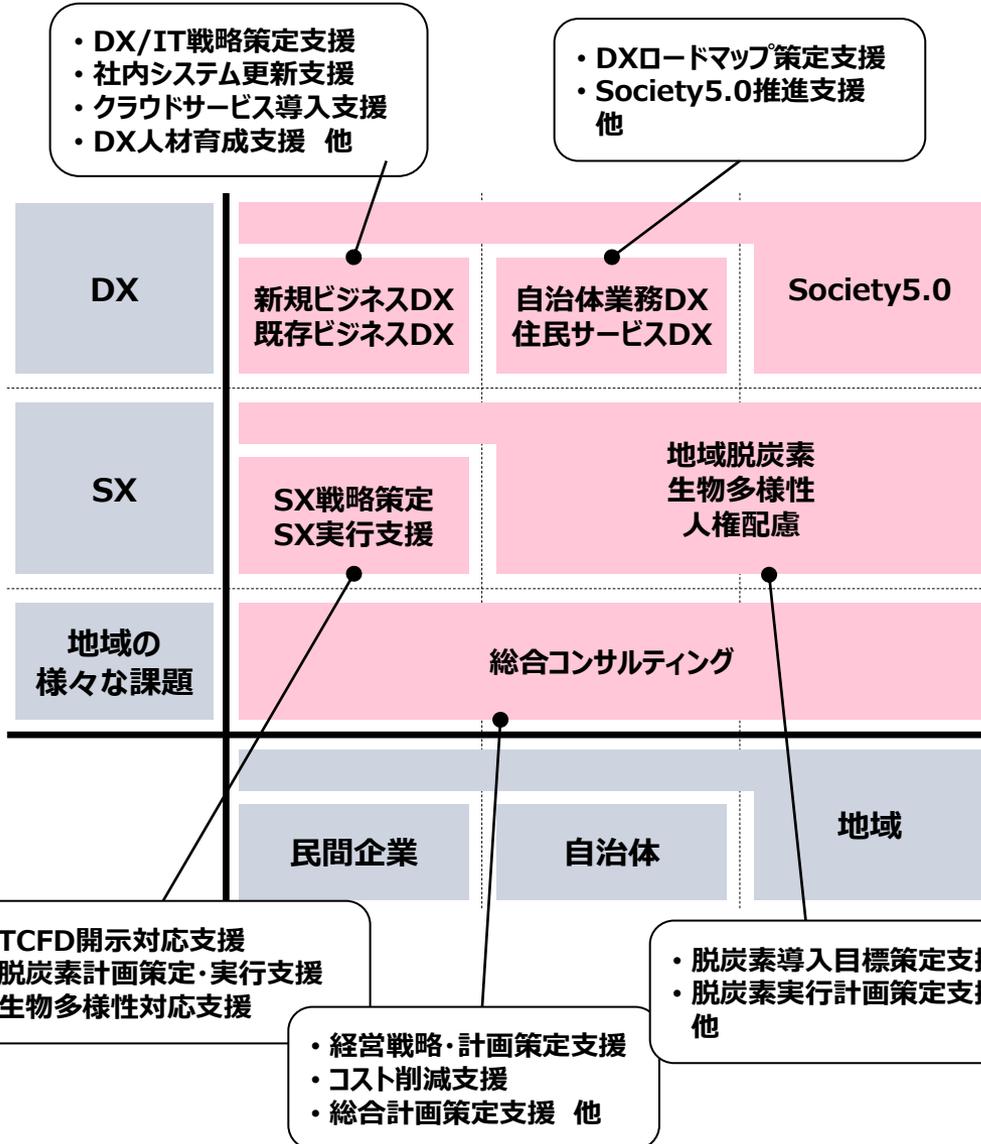
SX



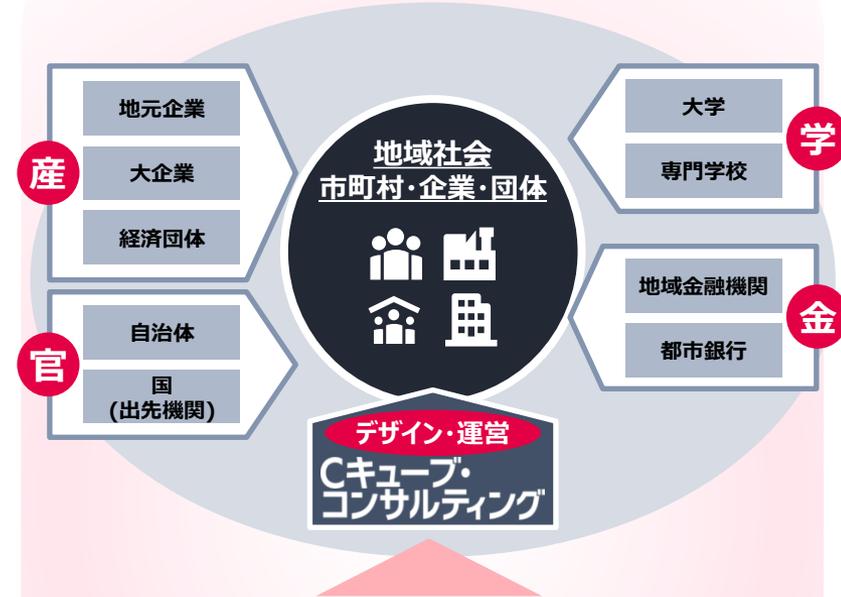
地域版DX・SX推進モデルの確立

- 地域金融機関として前例のない新しい**スタートアップ**、**進取の精神**を持った**コンサルタント会社**
- 地域のエコシステムの中心となり、困難な**地域の社会課題の解決**をリード
- コンサルティング力と、融資に留まらないちゅうぎんグループの総合力のシナジーによる**圧倒的に幅広い解決策**で、**地域社会の未来を創造**
- 東瀬戸内経済圏におけるリーディングバンクとして、地域との強固なリレーションにより、**地域の声(課題)に最も近いところ**に立って課題に向き合う

ビジネスドメイン



地域の社会課題の解決へ



ちゅうぎんグループの総合力

- **ちゅうぎんグループの経営資源**
上流(戦略策定)から下流(ファイナンス、人材獲得)までの一貫支援。
- **地域における信用力、リレーションの活用**
- **地方創生に熱い思いをもったプロ人材の集結**
外部出身のプロフェッショナル・コンサルタント主体の少数精鋭集団として創立。

Cキューブ・コンサルティング 代表取締役：西原 立



前職:専門領域

- AI/IoT構想・導入構築
- データアナリティクス
- 一次産業におけるデジタル化(特に農業分野)
- サステナビリティ戦略立案 (地域脱炭素、民間企業ネットゼロ戦略等)

大学院卒業後PwC入社。PwCあらた有限責任監査法人、PwCコンサルティング合同会社を経てCキューブ・コンサルティングに入社

- 定量的分析（データアナリティクス・AI等）の専門家として、キャリアをスタート
- M&A等における企業価値評価から、各種データ利活用に関する戦略立案、AIモデルの構築支援、デジタルプロダクトの開発等も手掛ける。特に農業分野においては、数多くのスマート農業プロジェクトをリード
- スマート農業を通じてスマートアグリシティ（1次産業を中心としたまちづくり）に関するコンサルティングにも従事
- 地域共創分野（DX/SX）が主な活動領域
- **岡山県西粟倉村（第1回採択）の脱炭素先行地域に申請段階から関与**

京都大学理学部卒、京都大学大学院人間環境学
研究科修了（相関環境研究専攻）

自治体/地元企業

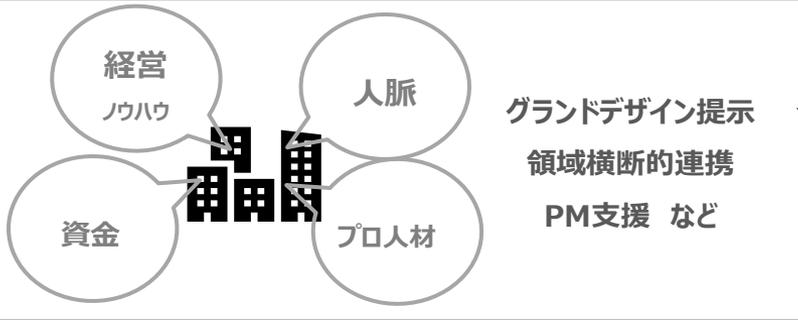
戦略立案・コンサル
各種調整

↑

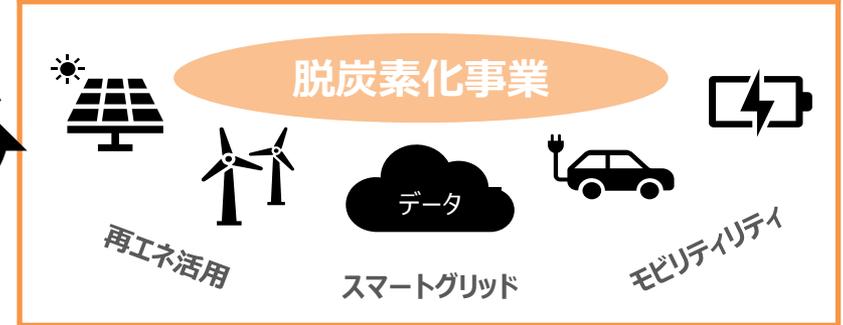
↓

業務委託料

Cキューブ・コンサルティング （戦略系コンサル会社）



地域エネルギー会社 （2023年4月設立予定）



会社設立の目的

地域の脱炭素化の推進を通じたサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）の実現

当社グループは業務軸を拡大し、地域の脱炭素化の推進（太陽光 PPA 事業等）を通じたサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）の実現により、お客さまの経営課題の解決や本業支援に積極的に取り組むことを目的に、当該子会社を設立します



地理

- 岡山県の最東北端
- 標高：270～1,280m
- 東西 9.0 km、南北に 13.5 km、総面積 57.93 km²の峡谷型
- 93%は森林であり、このうち人工林は 84%

気候

- 年間平均気温は約 11℃、年間平均降水量は約 2,000 mmの積雪寒冷単作地帯

人口

- 人口約1400人
- 15%程度が移住者

2030年までに目指す地域脱炭素の姿

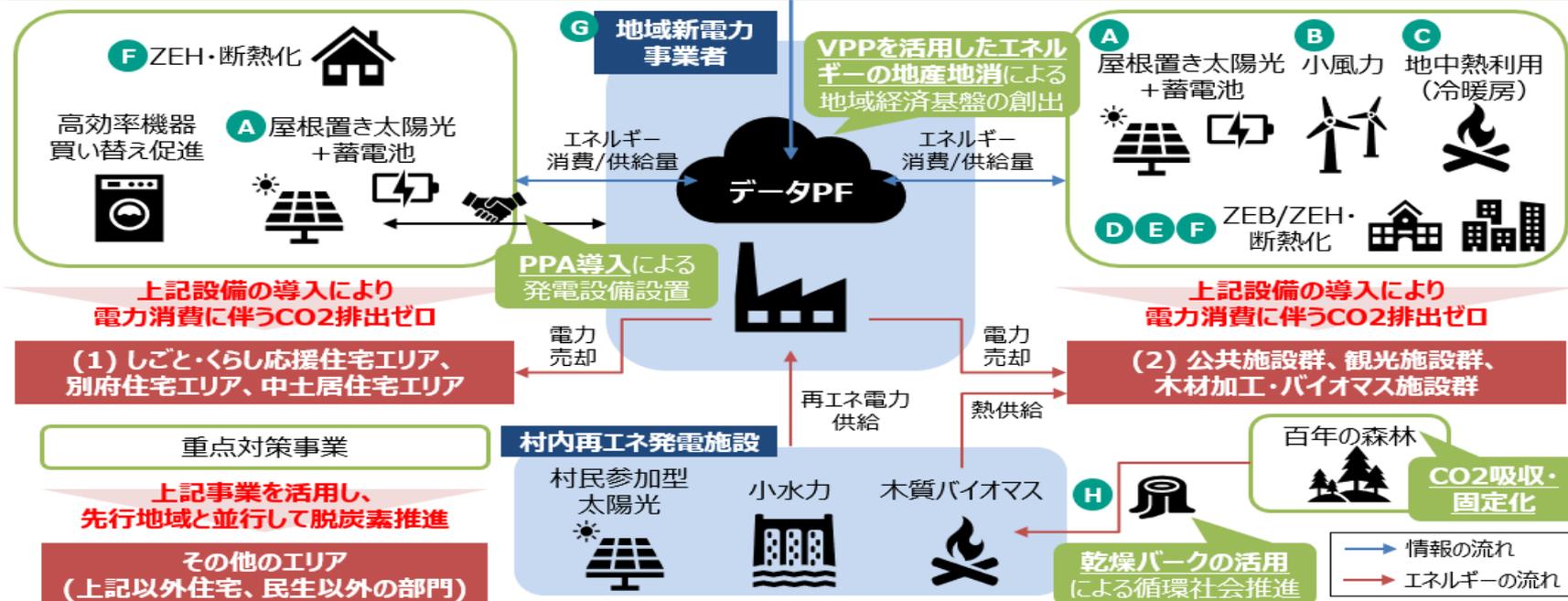
brighten our forests, brighten our life, brighten our future!!

生きるを楽しむ西粟倉村 ~Well-being~

SDGs未来都市計画

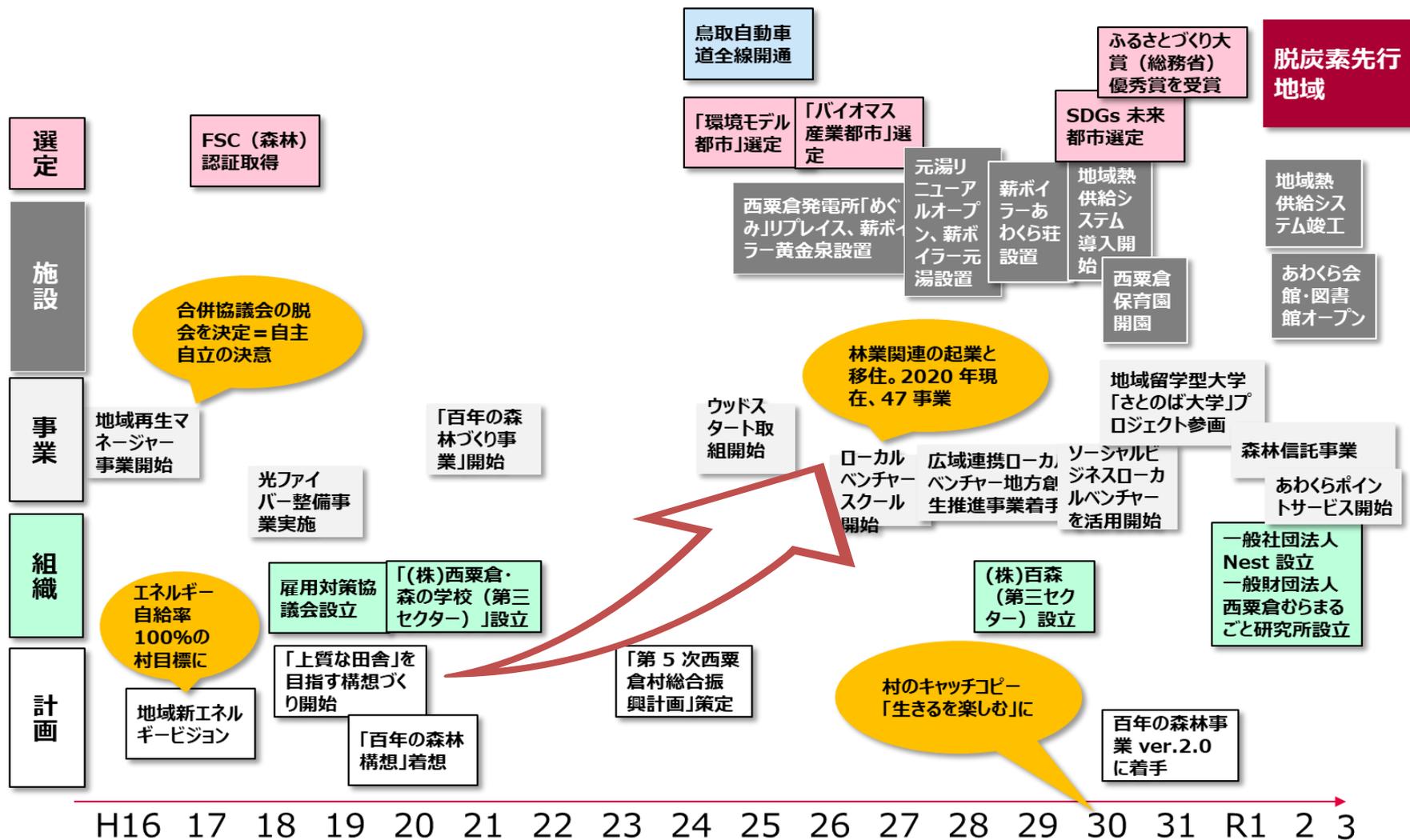


カーボンニュートラルに向けた取組推進により、更に上質な田舎へ



ビジョンの明確化が最も重要

ービジョンを元に、計画策定→組織化→事業化→施設整備を実行する



1

市の「強み・特徴」「課題」の棚卸整理

- 脱炭素の取り組みにより、地域のどの部分を強くし、どの課題を解決するのか、という地方創生のストーリーが重要
- 検討の冒頭にしっかりと棚卸を行い、認識の共通基盤を構築しておくことにより、検討の抜け漏れによる手戻りをなくす



2

脱炭素地域創生施策案のリスト化

- 左記で整理した地域の強み、課題等を解決する脱炭素の施策をリストアップする
- ここでのリストアップは他の地域での取り組みも参考
- 一方、独自の先進的な取り組みも採択には必要であるためその観点でも施策を検討

3

想定施策案の絞り込み・素案作成

- 左記にリストアップされた施策案の中から、「取り組みの広さ」「関係者の合意のとりやすさ」「先進性」等の観点から素案を作成
- 脱炭素先行地域申請の場所や申請の型（地方都市や農山村型等）の設定を検討
- エネルギーの需要と再エネ供給のバランスも検討（概要にとどめる）

4

ステークホルダーにヒアリング

- 作成した案をもってステークホルダーにヒアリングを行う
- アピールするポイントを明確にした資料作り行う
- 重要なステークホルダーとは複数回ヒアリングを重ね案の実現可能性を高める

5

最終案の作成

- ヒアリング等を踏まえて最終の案を作成





この挑戦が、未来となる。

ちゅうぎんフィナンシャルグループ